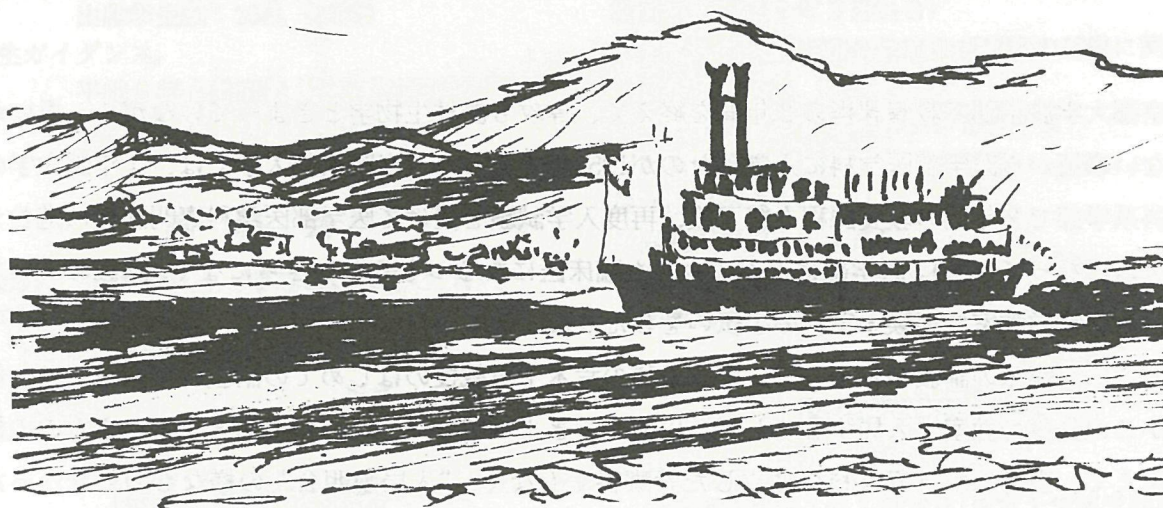


さざなみ



滋賀医科大学附属図書館報

No.39

目 次

1996年8月

師と本と.....	附属図書館長 半田 讓二.....	2
シリーズ「本との出会い」(4)		
至福のとき.....	化学教授 安藤 喬志.....	4
充実した教養図書.....	図書課情報管理係.....	5
個席AV室の一新.....	図書課情報サービス係.....	6
行事報告.....		6
平成8年度新入生オリエンテーション		
附属図書館の活動.....		7
本学関係者寄贈図書.....		8

「師と本と」

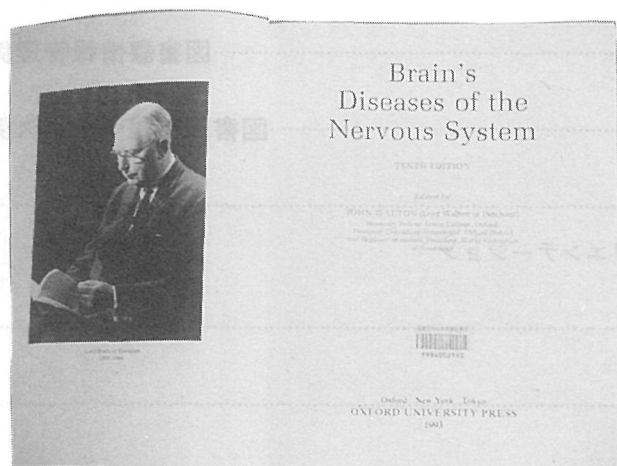
附属図書館長 半田 讓 二

京都大学農学部で教養課程の2年間を終えて、専攻も農林生物学ときまっていながら、思いがけない事情から医学部医学科に入学したのが1953年であった（当時京都大学では、4年制大学の理科系学部で2年間の教養課程を終了後、再度入学試験を受けて医学部医学科専門課程に進むシステムになっていた）。医学部に進んでからも臨床医になるつもりなどさらになく、講義のあいまには微生物学教室で実験・実習の手伝いをしたりなどしていた。

ところが臨床の講義が始まって、第1外科の荒木千里教授のはじめての講義に接したとき、何故かこの先生の教室に入局することが、以前からきまっていた、いわば運命とでもいうものの様に思えて、当時は脳神経外科は独立した診療科でもなく、“入局説明会”の様なものもなかったが、迷うことなくその途を選んだ。“脳神経外科を選んだ動機は？”とよくきかれても答え様もなかったが、以後40年間後悔したことはないから、正しい選択であったと思われる。

1年余りたって卒業を前に入局の希望を荒木教授に申し出たとき、“これを読み、全部覚えたらまたこい”と渡されたのがRussel Brainの2～300ページの神経学のテキストであった。Brainの神経学のテキストにはもう1つ、厚さ7～8cmの大部のものもあり、こちらは現在もSir John Waltonの改訂により“Brain's Diseases of the Nervous System (10版)”として版を重ねている。この小さい方のBrainのテキストは3ヵ月程の間に5、6回読み、どの辺りに何が書いてあるかほぼ覚えた。その次に与えられたのがGrinker/BucyのNeurologyで、これは英文そのものも難しかったし、はじめからこれにとりつけば、じきに放棄していたかもしれない。

物事を学ぶときには、基礎になるポイントをしっかりと抑えることがまず大切である。その場合、いきなり難しい本に手を出しても判らない。文章が簡潔・明快で、あいまいさのない本、こ



Brainの神経学のテキスト

れを選んでまずマスターすることが大切であることを学んだ。本に限らず、多様な情報の波にと
もすれば押し流されそうな今日、基礎としておさえるべき情報の正しい選択が一層大切であろう。

こうして入局して間もなく、簡単な手術の助手についたときのこと、荒木教授から“手術の前
には、どんなに慣れた手術のときでも、解剖のアトラスなり手術書なり、その手術に関係したと
ころを2ページでも3ページでもみて復習してから手術室に入るくせをつけろ”と教えられた。
以後、今日までこの教えは実行してきたつもりであるが、その意味するところが分かってきたの
は、10年余り過ぎてからであった。科長として医局員を指導する立場になって、毎年新入局者に
は同じことを言ってきた。余り実行されている様にみえないのは残念であるが、これは“教え方”
のインパクトの差かもしれない。

荒木教授が亡くなられてしばらくしてから、奥様からお電話を頂き、お宅に伺って何冊かの蔵
書を形見に頂いた。その1つは先生が常に机の上において事あればひもとかれたというSobotta
の解剖書Atlas der deskriptiven Anatomie des Menschen (1920)の3分冊で、装訂もいたんで
バラバラになりかけ、紙も茶色に変色していたが、今も脳神経外科の医局の図書庫の宝としている。

院生としてはじめての学会発表の1週間程前に口演原稿を教授室にとどけた。持時間6分だっ
たので、“400字詰原稿用紙2枚で3分”という先輩の言葉に従って、4枚にまとめた。2・3日
後、教授室に呼ばれて、秘書から渡された原稿はぼっさり朱が入って、ほぼ1/2になっていた。窓
に向かって坐っておられた荒木教授が振りむかれて、“6分ということは6分間しゃべれというこ
とではない。いいたいことがいえれば、2分でも3分でも、短ければ短いほどいい”、とだけいわ
れた。

学会発表もさることながら、論文も簡潔で明確でなければならない、“is”か“is not”かはっ
きりせよ“すくなくない”とか“多いとはいえない”といった表現は絶対使うな、といった教え
は、口に出してはいわれなかったが、数篇の論文をみて頂くうちに身についた。

最近、朝日新聞の天声人語に“うそをついている時程言葉が多い”とあったのを見て、これら
を思い出した(1996.3.24版)。

(はんだ じょうじ 脳神経外科学)



Sobottaの解剖書

シリーズ「本との出会い」(4)

至福のとき

化学
教授 安藤 喬志

本が好きだ。

趣味は読書です、とか言うほうがいいのだろうけれど、それでは少し違うような気がする。もちろん本を読むことが好きなのだが、本そのものも好きなのである。好きな作家の、造りの良い本など、宝物のようにそっと扱いたくなる。

本屋へはいると、数時間はすぐ経ってしまう。それを何軒もはしごをすれば、1日朝から晩まで本屋巡りで過ごすことができる。学会などで上京すると、会期中の半日はこんなふうになる。荷物が重くなるなどと思いつつ、また何冊か買ってしまうことも多い。文庫本だって軽くて安く好きなのだが、本好きとしてはハードカバーの単行書が買いたくなるから、始末が悪い。

こんなに本好きになったのは、本を読みたいときに本がなかったせいだと思う。少年時代を過ごした戦争末期から戦後へかけて、本当に活字に飢えていた。だからといって、我々の世代の皆が皆そうなったわけではないのだけれど、私の場合、書物や活字への飢えがずっと続いて、私の本好きを形づくってしまったように思う。

書物であれば、活字であれば、何でも良かった。小学生の頃、当時はもちろん本などそんなに買えるわけもなかったから、貸してくれそうな本があると聞くと、どんなに遠くへでも出かけていった。「怪人二十面相」や「落語全集」から吉屋信子の少女小説まで、活字なら何でも読んだ。「落語全集」はたしか黄土色の分厚い二冊組の本で、落語家の口調そのままを移した楽しい本だった。長い間借りっぱなしにしていた、催促されたことを覚えている。

私の家では本を買うことは奨励されていて、ちゃんとした本であれば半額を家を出してもらえた。残りは小遣いで出すのだが、お手伝いが点数に換算されていて、茶の間の壁に正の字で

書き込むようになっていた。月末には1点いくらかでお小遣いがもらえた。母親が病弱であったから、手伝うことは山ほどあった。

乱読が治まってくると、だんだん一人の作家のものをたくさん読むようになり、個人全集を買うようになった。堀辰雄や太宰治がそうであった。ドストエフスキーは全集を買ったものの肌に合わなかった。現存の作家では庄野潤三だろうか。第三の新人として芥川賞をもらって文壇にデビューした頃の若さの中の日常の不安から、最近の孫たちとの穏やかな日常生活まで、自分より少し前を歩く人として、しみじみと好きである。あんな老後なら良いと思う。

1965年に助手になり、1967年に結婚した。助手の給料で生活するには、あまり仕事に関係のない本など買っておれないのであるが、ありがたいことに、私の妻は一度も本を買うことについて苦情を言ったことがなかった。当時の妻の趣味は洋裁であって、端切れを見つけてきてはミシンを踏んで、三人の娘たちの衣装を作るのが楽しみであった。そこで彼女はせっせと端切れを買い、私はせっせと本を買った。

大阪のわが家の庭にキウイの木がある。大学の大勢の方々にご心配をかけた8年前の火事騒ぎで1本が枯れたりして、長い間元気がなく放っておいたのだが、突然3年前から花が咲き、実をつけ、ぐんぐん枝を伸ばすようになった。そこで枝の先を2階まで引っ張りあげたところすっかり茂って、その下に気持ちのいい日陰ができた。それで今年は大きくて頑丈なデッキチェアを買い、休日はこの日陰のデッキチェアに寝そべりながら本を読む時間を、少しでも作るようにしている。横にワインでもあれば、これぞ至福のときといえよう。何年かたてば私も定年になり、長い時間を持て余すようになるかも知れない。そうなっても、こんな時間の過ごし方ができるならば、定年も悪くないかも知れない。そのころ、乏しい年金で本を買うことに、妻は苦情を言わないだろうか。少し心配している。

(あんどろ たかし)

充実した教養図書

附属図書館では、平成6年度、附属図書館委員会の承認を得て、全人的医学教育に役立つ一般教養図書を特別図書として購入しました。主なものとしては、ノーベル賞受賞作品やその候補者の作品、日本の文学賞の受賞者作品、医学出身者の作品、美術書などです。

平成7年度も引き続き、一般教養図書の充実をはかることになり、附属図書館委員2名の方に図書の選定をお願いしました。今回は図書と視聴覚資料を購入しました。また、岩波文庫の過去10年間に出版された作品もあわせて購入しました。おもな購入資料は以下のとおりです。ぜひご利用下さい。

図 書

- ・芥川賞全集 (文藝春秋)
- ・芥川龍之介全集 (岩波書店)
- ・荷風全集 (岩波書店)
- ・講座生涯発達心理学 1～5 (金子書房)
- ・真実の人間 (エドワード・ホフマン、誠信書房)
- ・成人教育の意味 (学文社)
- ・現代社会学 1～26 (岩波書店)
- ・わが生活と思想より (シュヴァイツァー、白水社)
- ・生活技術の人類学 (吉田集而、平凡社)
- ・ベルツの生涯 (安井広、思文閣出版) など



ビデオ

- ・銀河宇宙オデッセイ 全7巻 (NHKクリエイティブ)
- ・地球大自然物語 全4巻 (NHKクリエイティブ)
- ・地球大紀行 全12巻 (NHKクリエイティブ)
- ・NHKスペシャル 驚異の小宇宙/人体 1 (NHKクリエイティブ)
- ・NHKスペシャル 驚異の小宇宙/人体 2 (NHKクリエイティブ)
- ・幼児が心を満たす保育 (サングラフ)
- ・生命倫理を考える 終わりのない8編の物語 (カナダ国立映画制作庁)
- ・目でみる新しい臨床検査シリーズ 全15巻

L D

- ・Animations of Thoracic Viscera (ワシントン大学)
- ・Human Brain Animations (ワシントン大学)
- ・Histology and Pathology (Human Light Microscopy II) (ワシントン大学)
- ・Slice of Brain (ワシントン大学)
- ・The Cell Biology, vol.1～2 (Videodiscovery)
- ・The Bio Sci II (Videodiscovery)
- ・Biology Encyclopedia (Harpercollins)

個席AV室を 一新しました

平成8年度 新入生オリエンテーション

図書館にはビデオテープ、レーザーディスク等、視聴覚資料を多数所蔵しています。これらは2階個席AV室でご利用いただけます。

このたび、個席AV室の機器をすべて新しいものに取り替えました。新しい個席AV室は、ブース3席で、ビデオデッキ（Uマチック、VHS、8mm）のほかに、マルチレーザーディスクプレーヤーを導入し、LD、CDの視聴ができるようにしました。ソフトも順次新しいものをそろえていきますので大いに利用してください。

（なお、数人以上のグループでビデオテープ等を視聴される場合は、グループAV室を利用していただくことができます。）



— 本年も履修指導の一環として、附属図書館の「新入生オリエンテーション」を次のように実施しました。

- ・対象者 新入生160名（医学科100名、看護学科60名）
- ・日時 4月12日(金) 14:30~16:15
- ・場所 臨床講義室および図書館
- ・内容 図書館長の挨拶と図書館についての全体説明のあと、7班に分けて図書館へ移動、入室ゲート、雑誌や図書場所、OPAC、貸出・返却等、図書館の利用方法について案内をした。

岩波文庫入りしました

図書館で『岩波文庫』を購入することになり、ちょうどこの新入生オリエンテーションの当日に専用書架が届きました。2階の電動集密書架に近い壁側に置いています。新入生には、まだ本が一冊も並んでいない書架の前で「ここが岩波文庫です。どうぞ利用してください」という、おかしな説明になりました。

現在でもまだ書架に置いてあるのは少しですが、絶版で手にはいなかったものの以外の約1,200冊を順次配架します。日本文学、世界文学、歴史・地理、自然科学、法律・経済等いろいろな分野の“一度は読んでおきたい”著者であり、作品です。頭を柔らかくする効果があるかもしれませんし、頭の訓練になるかもしれません。何よりも活字の世界のおもしろさを知っていただけたらと思います。

◆ 附属図書館の活動 ◆

(平成7年7月～平成8年6月)

利用者向けオリエンテーション

医学文献の調べ方に関するガイダンス

平成7年9月13日及び27日

出席学生数：35名 (41%)

新入生ガイダンス

平成8年4月12日

出席学生数：160名 (100%)

講演会

「大学図書館の情報化と事務のO A化について」

平成8年2月9日

講師 宮崎医科大学教務部図書課長

福富 正彦氏

附属図書館刊行物

さざなみ No.37/38 (平成7年7月)

附属図書館統計

平成7年度 受入冊数	図 書	1,751冊	
	製本雑誌	2,116冊	
	合 計	3,867冊	
平成7年度 受入雑誌数	和 雑 誌	486種	
	洋 雑 誌	540種	
	合 計	1,026種	
平成7年度 館外貸出	学 生	5,953人	9,947冊
	教 職 員	3,507人	7,708冊
	合 計	9,460人	17,655冊
平成7年度 相互貸借 ()現物貸 借数で内数	受 付	6,385件	(43件)
	依 頼	4,586件	(44件)
	合 計	10,971件	(87件)
平成7年度	文献検索利用件数	9,520件	
所 蔵 冊 数	図 書	58,132冊	
	製本雑誌	57,253冊	
	合 計	115,385冊	
入 館 者 数 (平成7年4月～ 平成8年3月)	有人開館	73,604人	
	無人開館	14,220人	

附属図書館委員会

第72回 (平成7年7月20日)

- ・図書館備付け外国雑誌の見直しについて

第73回 (平成7年10月2日)

- ・平成7年度図書館備付け資料購入予算について

- ・図書館備付け和雑誌の見直しについて

- ・図書館資料の充実について

第74回 (平成7年11月7日)

- ・図書館備付け和雑誌の見直しについて

第75回 (平成8年3月21日)

- ・図書館資料の不用の決定及び廃棄の基準に関する

- 要項について

- ・平成9年度概算要求について

- ・附属図書館の将来構想について

第76回 (平成8年6月5日)

- ・附属図書館の将来構想について

- ・図書館要覧 (仮称) の発行について

- ・図書館ホームページの開設について

図書館関係会議

近畿地区医学図書館協議会例会

(第63回)平成7年7月28日(京都大学医学図書館)

(第64回)平成7年10月27日(京都府立医科大学)

(第65回)平成8年3月1日(関西医科大学)

(第66回)平成8年6月21日(大阪医科大学)

図書館情報システム特別委員会ILLシステム専門委員会

(第1回)平成7年8月24日(大阪大学附属図書館)

(第2回)平成7年10月4日(大阪大学附属図書館)

(第3回)平成7年11月22日(大阪大学附属図書館)

図書館情報システム特別委員会目録業務システム専門委員会

(第1回)平成7年9月5日(京都大学附属図書館)

(第2回)平成7年10月16日(京都大学附属図書館)

(第3回)平成7年12月12日(京都大学附属図書館)

(第4回)平成8年2月20日(京都大学附属図書館)

近畿地区国立大学図書館協議会

平成8年4月24日(京都大学附属図書館)

第67回日本医学図書館協会総会

平成8年5月21～22日(神戸国際会議場)

平成8年度国立大学附属図書館事務部課長会議

平成8年5月28日(東京医科歯科大学)

近畿地区医学図書館協会実行委員会

平成8年6月12日(京都府立大学)

第65回近畿地区国公立大学図書館協議会総会

平成8年6月14日(奈良猿沢荘)

本学関係者寄贈図書

越智淳三(解剖学第二講座・教授)

分冊解剖学アトラス I 運動器

文光堂 1995

分冊解剖学アトラス II 内臓

文光堂 1995

分冊解剖学アトラス III 神経系と感覚器

文光堂 1995

高橋三郎(名誉教授)

向精神薬の上手な使い方 Q & A

メディカルレビュー社 1995

DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル

医学書院 1996

加藤進昌(精神医学講座・教授)

てんかん けいれん準備性と発作発現の神経 Vol.9

学会出版センター 1995

The Hippocampus: Functions and Clinical Relevance
(Developments in NEUROLOGY 11)

Elsevier 1996

戸田 昇(薬理学講座・教授)

血管生物学の新しい展開 血管は単なるパイプではない
クバプロ 1995

NOと病態・治療 最新医学からのアプローチ14
メジカルビュー社 1995

佐野利勝(名誉教授)

ケラー作品集 第4巻

松籟社 1992

ご惠贈ありがとうございます。図書館の蔵書として広く利用に供させていただきます。

附属図書館委員会委員

委員長 半田 讓二(脳神経外科学講座)

委員 辻 正博(歴史学)

委員 安藤 喬志(化学)

委員 堀池喜八郎(生化学第一講座)

委員 大久保岩男(生化学第二講座)

委員 西 克治(法医学講座)

委員 木之下正彦(内科学第一講座)

委員 島田 司巳(小児科学講座)

委員 山路 昭(薬剤部)

委員 上岡 澄子(臨床看護学講座)

人事異動()内は旧官職名

平成8.3.31

定年退官 高橋 三郎 (附属図書館長)

平成8.4.1

附属図書館長 半田 讓二

図書課長 松藤 典生 (熊本大学附属図書館
情報サービス課長補佐)

総務係長 白木 俊男 (業務部施設課整備係長)

情報管理係長 谷垣 勲 (管理係)

広島大学附属図書館
情報サービス課長 京藤 貫 (図書課長)

京都大学厚生課専門職員 森下 誠一 (管理係長)

京都大学附属図書館情報
サービス課資料運用係長 小川 晋平 (整理係長)

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」No.39

1996年8月発行

編集・発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520-21 大津市瀬田月輪町

TEL.0775-48-2078 FAX.0775-43-9236